

受賞おめでとうございます

新井宿自治会連合会 感謝状贈呈

- 《退任会長》 野口 宏
- 《退任副会長》 秋山 崇一 萩原 千史 三沢清太郎 菊池 司郎
- 《永年在職者》 上原 祐子 岡田 好司 金井 敏明 田中 嶺久 田中千恵子 菅原 博 酒井 豊 児玉 信明 五十嵐仁志 松原美枝子 高橋 明子 久保 喬 五十嵐英之助 (敬称略)

新井宿特別出張所長着任のご挨拶



4月1日付けで新井宿特別出張所長に就任しました岡本輝之と申します。かつて区役所本庁舎があった新井宿には特別な思いがあり、住民の皆様と一緒にこの地域を愛していきたいと思っております。

地域のために良い仕事をするためには、地域の皆様と「信頼」を築くことが何よりも重要であると考えております。様々な出会いを大切にしながら、誠心誠意の気持ちで努めてまいります。皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

観音通り共栄会「わかば祭り」盛り上がる

観音通り共栄会では、毎年5月に行われるわかば祭りで、28日に入新井第四小学校のプラスバンドのパレード、「大田区のスター」ダブルダッチの世界チャンピオンと遊ぶ、というイベントを行いました。

ダブルダッチは、2本のロープを使って跳ぶ縄跳びで、3人以上で行いますが、向かい合った2人のターナー(回し手)が、右手のロープと左手のロープを半周ずらして内側に回す中を、ジャンパー(跳び手)が色々な技を交えて跳ぶ、というもの。チームワークが自然に身につく楽しいスポーツです。お招きしたダブルダッチチーム『ロジャー』は、2015年6月に開催された「アメリカンダブルダッチ世界大会」で、シングルス、ダブルス、ツインで優勝したチームです。



6年生主体の入四小のプラスバンドは、高度な演奏で、地域の行事に協力し、親しまれています。

「スポーツ健康都市」、「国際都市おおた」を推奨し、若い力とスポーツの力で地域一体の商店街イベントになりました。

編集後記

今年の戦争体験特集は学童疎開を取り上げました。編集委員として、また学童疎開資料センターの一員として新井宿の疎開体験者の聞き取りをしました。その中で貴重な写真や資料を頂きました。8月15日からの学童疎開展に展示させていただきます。お話を提供ありがとうございました。多くのお話を伺い、共通の体験や一人ひとり

の違いが明らかになりました。どの方のお話でも大変意味深いものでした。このことを次の世代に伝えていかなければと強く思います。紙面の都合で3人の方だけ掲載させていただきました。来年も8月号で掲載していきたいと考えています。

(吉川編集委員)

絵本「ガタガタ村と大ナマス」プレゼント

山王三・四丁目自治会

熊本地震でお亡くなりになった方々をお悔やみし、被災された方々をお見舞い申し上げます。

この国は、どこにいても大震災から逃れられません。「三つ子の防災百まで」。2012年に山王三・四丁目自治会有志が作った子供向け防災啓蒙絵本「ガタガタ村と大ナマス」をこんな時だからこそ、お子様がいらっしゃるご家庭に抽選で、20名様に差し上げます。ご希望の方は新井宿特別出張所受付まで。8月31日締切で、当選された方には出張所からご連絡差し上げます。

ガタガタ村と大ナマス



「いきいき公園体操」始まる

7月25日から新井宿児童公園(中央四丁目、「さぽーとぴあ」向かい)で「いきいき公園体操」が始まりました。

この体操は、大田区が65歳以上の方を対象に行うもので、5年後も現在の体力を維持するため、公園に設置した健康遊具を活用し、毎月第4月曜日の午後2時から1時間半程度実施します。区内3か所ですでに実施していますが、参加者からは、「膝や腰の痛みが軽くなった」「足がつかなくなった」等の感想が寄せられています。



事前の申し込みは不要となっていますので、当日直接会場へお越しください。なお、会場まで自分で通える方、医師から運動制限を受けていない方が対象です。

皆様ふるってご参加ください。

*問合せ先:

大田区役所高齢福祉課 総合事業担当
電話 5744-1624

発行 地域力推進新井宿地区委員会

編集 「わがまち新井宿」編集委員会

- 中央四丁目町会 編集委員長 若生 一 順
- 山王三丁目東自治会 副編集委員長 荒木 秀 樹
- 中央一丁目町会 副編集委員長 齋藤 香 子
- 山王三・四丁目自治会 編集委員 三沢 清太郎
- 山王三丁目町会 編集委員 吉川 信 一
- 新井宿五丁目町会 編集委員 加藤 弘 子
- 新井宿六丁目町会 編集委員 松原 美枝子
- 新井宿七丁目町会 編集委員 落合 松 枝

……共同編集……

監修 新井宿自治会連合会

事務局 大田区新井宿特別出張所

大田区中央1-21-6 ☎ 3776-5391

http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html

わがまち Araijuku 新井宿



「わたしの101号室」
入四小5年 (水彩ほか)
鈴木もさんの作品

出張所からのお知らせ

(大田区地域包括支援センター)

さわやかサポートが出張所2階に移転します!

介護保険の認定申請や区の高齢者サービスに関する窓口になっている「さわやかサポート大森医師会」(大田区地域包括支援センター)は、8月6日に新井宿特別出張所の2階に移転します。それに伴い、名称も「さわやかサポート新井宿(大森医師会)」に変更になります。

高齢者福祉に関する各種相談や申請手続き等が出張所内で行えるようになり、利便性が大きく向上します。



高齢者の皆さん、お困りの事はありませんか? さわやかサポート(大田区地域包括支援センター) 大森医師会

「さわやかサポート」ってどんなところ?

- ◇高齢者の生活を支援する総合相談
- ◇要支援1、2の方のケアプラン作成
- ◇高齢者の権利擁護に関する相談(虐待、認知症、住宅問題、消費者被害など)
- ◇要介護認定申請などの高齢者サービスの申請窓口 などなど…
- ◇介護予防に関する相談

さわやかサポート新井宿(大森医師会)

窓口開設時間:

月~金/午前9~午後7時 土/午前9~午後5時

電話: 3772-2415

管轄: 新井宿特別出張所管内

(山王3、4丁目、中央1~4丁目)

さわやかサポートの皆さん



28年度介護予防教室



月替わりで、介護予防体操や、講師の先生をお招きした各種講座を開催します。

対象: 山王3、4丁目、中央1~4丁目にお住まいの65歳以上で、ご自身で歩いて来られる方
活動日: 毎月第3木曜日14~15時半
会費: 無料(必要に応じて徴収する場合もあり)
お申込: さわやかサポート新井宿(大森医師会)

認知症サポーター養成講座を開催します

認知症サポーターは、認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族をあたたく見守る応援者です。ひとりでも多くの方が応援者になることが、認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりの第一歩です。

日時: 11月25日(金) 午後2時~
会場: 新井宿特別出張所 3階会議室
講師: さわやかサポート所属のキャラバン・メイト
定員: 100名
お申込: 当日会場へ
問合せ: さわやかサポート新井宿(大森医師会)

新井宿六丁目町会
秋山良子
(昭和12年生 78歳)

大森区立入新井第四国民学校
疎開先 富山県氷見

私が物心ついたころのこの辺り（現中央三丁目）は、畑もあって、周りは庭付きの家が多く、のどかでしたが、昭和33年に観音通り商店街ができて活気ある街になりました。私の家は理髪店で、母は東京市第一号の女性理髪師でした。お客さんには翻訳家として有名になった村岡花子先生も顔をあたりに来ていました。

私は18年に入新井第四国民学校に入学しました。19年には6年生と5年生の静岡県への疎開が始まりました。

20年になると空襲がだんだん激しくなり、私も怖い思いを何度も経験しました。B29が大きな姿で頭上を飛ぶのを驚くほど近くに見ました。長兄は、B29の爆撃から逃げる途中で親と離れ離れになった子どもを助けようとしたが、焼夷弾の直撃を受け、助けることはできませんでした。その後、長兄も逃げる途中で火に巻かれて亡くなりました。そのことでその子の親から責められ、残された家族は大変つらい思いをしました。次兄は海軍航空隊（予科練）に入隊していましたが、結核で亡くなりました。次兄の残した絵日記を、今も大切に私の身近くにおいて眺めています。

こんな状況の中、20年の5月、3年生で疎開することになり、私も行李に母の編んだセーター・モンペなどを詰めて、出発の準備をしました。

富山県氷見の疎開先は山の中のお寺でした。学校までは2キロぐらいあって、雨の日は、わらじや裸足・菅笠の出で立ちました。勉強はあまりやっていなかったと思います。

食べものはありました。ジャガイモ・イモヅルなどをご飯に混ぜて量を増やして食べました。美味しかったことを今でも覚えています。村の人がタニシやカエルを食べるのを見て、私達も食べました。他にも、村の人から食べものももらって食べました。遊びは山に行き行って駆け回りました。村の子どもたちとは、ほとんど交流はありませんでした。いじめやけんかは思い出さないのであまりなかったと思います。お風呂は農家のお家にもらい湯です。5人ぐらいに分かれて行きました。それでも、シラミには手を焼きました。

面会の日にはみなが楽しみにしていましたが、私の親は仕事で来られず、面会の日には寂しくてしかたがありませんでした。級友が面会で受け取った塩豆など、ほとんどは本人のものでしたが、みんなに少しずつ分けてくれました。

昔のことですから先生は厳しかったのですが、寮母さんやお寺の方は優しくしてくれました。具合が悪くなり学校を休んでいると、お寺のお婆さんが優しく「こちらにおいで」と言って、麦こがしを用意してくれました。困っていたら、みな声をかけてくれました。当時の日本人はみな優しくかったと思います。今はどうでしょうか？

運よく氷見では空襲は受けませんでした。8月、お寺のお婆さんが「戦争は負けた」ことを教えてくれました。その時、負けたことより「終わった、家に帰れる」という喜びでいっぱいでした。大森駅には進駐軍が来ていました。私も「ギブミー・チョコレート」という言葉を知って、使いました。兄が二人とも亡くなって、私が理髪店を継ぎました。今思うと戦争がなかったら、私が店を継ぐことはなかったでしょう。私にも違う生き方があったかもしれません。



朝のおつとめ



写真は「大田区の学童集団疎開 平和のいしずえ」（大田区教育委員会 平成6年3月発行）より

未来へ語り継ぐ戦争体験 ～学童疎開～

戦争体験の特集も今年で5回目になります。今回は、「学童疎開」をテーマに取り上げました。当時、学童集団疎開を体験した方々に、編集委員が直接お話を伺いました。

お話はインタビュー形式で質問に答えていただきました。

文責：編集委員 吉川 (敬称略)

新井宿五丁目町会
和泉千鶴子
(昭和9年生 81歳)

大森区立入新井第二国民学校
疎開先 静岡県熱海
再疎開先 岩手県水沢

春日神社の向いに住んでいました。建物疎開でたくさんの建物が壊されて、そのままになっていました。近くに焼夷弾が落ちて消したこともありました。春日神社で縄跳びをして遊んだことを覚えています。

昭和19年9月、4年生の私は熱海の真誠館に疎開しました。たくさん部屋があったことに驚きました。疎開には寮母さん（20歳ぐらいの方）が付いてきました。その人は近所の方だったので、心強かったです。寂しさもまぎれました。魚市場でイルカが取れたので食べたところ、とても美味しかったことが、忘れられません。

学校では、あまり勉強した記憶はありません。授業の一部として六国峠まで10キロ程の遠足に行ったり、薪拾いに熱海梅園まで行ったりしました。遊びは、家にいた時と変わらない遊びをしていました。地元の子供とは、ほとんどかかわったことはありません。熱海ということで、温泉があり、入浴には苦労はありませんでした。けんかやいじめもこれといった記憶がないので、あまりなかったかもしれません。

困ったことはやはり、毛シラミが出たことです。楽しかったことは面会です。お菓子を持ってきてくれて、みんなにも分けてあげました。私の家はお店をやっていたので、面会日の都合がつけやすかったからでしょう、よく来てくれました。有難いと思いました。

再疎開では、父親が疎開地の岩手までついてきてくれました。本当にうれしかったです。岩手県水沢では各農家に分宿となりました。ポツンポツンと家がある農村です。農家の人の言葉がわからず、とても困りました。このお家は大家族ではなく、7～8歳の子供とその両親の所帯だったようです。田植えを手伝うことはありましたが体験程度だったと思います。食べものもあり、ひもじい思いはしなくてすみました。有難かったです。

岩手では空襲の体験はありません。8月15日、ラジオで玉音放送を聞きましたが、よくわかりませんでした。

戦争に負けた悔しさはありませんでした。それより、家に帰れる嬉しさが込み上げてきました。

10月になって家の者が私を引き取りに来ました。4年生から5年生にかけて、約1年間の学童集団疎開が終了しました。戦後、水沢の疎開の受け入れ先に伺って、お話を伝えました。

中央一丁目町会
間宮幸一
(昭和9年生 81歳)

大森区立入新井第二国民学校
疎開先 静岡県熱海
再疎開先 岩手県胆沢郡真城村

疎開は突然でした。昭和19年8月ごろだと覚えています。国で決めたのが6月ですからあつという間です。4年生と6年生は熱海の真誠館、3年生は同じく熱海の玉ノ井別館、5年生は焼津です。出発の時は、行李に学習用具や衣服を詰めて、布団も運びました。子どもたちとともに、先生、寮母さん（児童のお姉さんやお母さん、中には小さな子どもと一緒にの方もいました）、それから賄いの人、合わせて10人ぐらいが同行しました。みな遠足気分でしたが2～3日も経つと寂しさが増してきました。

大きな部屋で60人ぐらいが一緒に生活をしました。勉強は午前中だけで、ミカン箱2個に張り板をわたして机にしました。6年生が4年生の世話をする形になっていたようです。遊びは百人一首・双六など。月1回は自分たちで考えた出し物で、演芸会をやりました。薪拾いにも熱海の梅園に行きました。今でも印象に残るのは、旅館のすぐ前にある市場でイルカが上がって、食べたことです。とても美味しかったです。栄養が悪かったのでしょうか、みんな霜焼けで苦労しました。看護婦さんは2人いましたが薬は赤チンぐらいでした。

一番嬉しかったのは、面会の時です。私の家族は約10カ月の間に4～5回来てくれたように思います。慰問袋に煎餅が入っていて、多いとみんなに分けるようにと先生から言われました。皇后陛下から御歌とビスケットを頂戴したことも覚えています。御歌は「つきの世を せおふへき身そ たくましく たたしくのひよ さとにうつりて」というものでした。

疎開が長くなると、どうしても寂しくて脱走を図った子もいたようです。熱海の駅で捕まると聞きました。お風呂は毎日のように入りました。だんだん小さな風呂になりました。シラミが発生すると、どうしてもみんなに伝染します。これを卵まで退治するには衣類等を大きな釜で煮沸するしかありません。自分たちではできないので大人の人にやってもらいました。

熱海も危なくなると、再疎開が決まりました。20年5月に列車で岩手県に向かう途中、品川駅に止まりました。たくさんの家族が別れを惜しんで来ていました。つらい別れでした。子どもの私たちでも、もしかすると、これが最後の別れかと感じました。涙があふれてきましたがじっと我慢しました。着いたところは、岩手県胆沢郡真城村、平泉から2つ目の駅「陸中折居」でした。私たちは農家に分散して宿泊することになりました。お家は旧家で、食べものも十分にありました。お餅もついてくれました。いい家にあったようです。戦後もずっと交流しています。担任の川島先生に赤紙がきました。陸中折居駅までみんなで見送りに行きました。みな泣きながら送ったことを覚えています。先生には戦後、入二小学校で再会しました。

岩手でも米軍の艦載機による機銃掃射がありました。草むらに逃げたり、防空壕に入ったりしました。終戦はラジオで聞きました。帰宅が決まった日、お寺でお餅をついてくれました。せめて1年前に戦争をやめていればよかったのにと今になって思います。11月7日に、何も無い焼け跡を目にしながら自分の家に帰りました。

旧大森区新井宿の学童疎開と疎開原画展のお知らせ

日時：2016年8月15日（月）～8月22日（月）10時～17時（土日も公開）

会場：新井宿特別出張所（展示は3階会議室・記念講演は2階会議室）

・記念講演 小関智弘氏「その頃の大森と私の疎開体験」

8月15日 13時より（要申込み）

・新井宿の学童疎開体験者によるトーク 8月20日 13時より

・新井宿の学童疎開の資料展示（善慶寺に落ちた焼夷弾・体験者の記録）

・小島義一氏 学童疎開を描いた絵本「うちに帰りたい！絵で見る学童疎開」の原画展示

記念講演の申込み先

（8月1日申込み開始）

学童疎開資料センター

吉川（山王三丁目町会）

電話・FAX

03-3771-5818

携帯電話

090-6791-7452